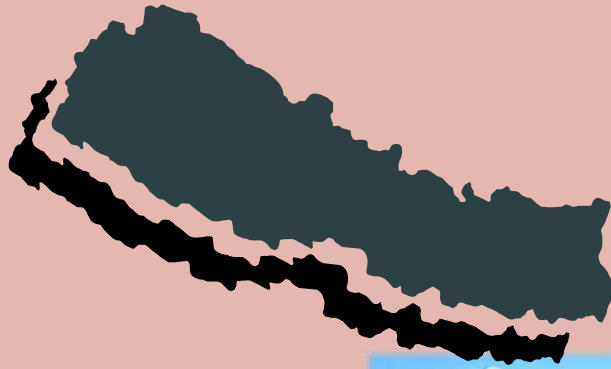


世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 ネパール連邦民主共和国 



【表紙の写真】

(右上) 7000～8000m級の山が林立する
ヒマラヤ山脈

(左下) ネパールの子どもたち



外務省「わかる国際情勢」
～ネパールの民主化・平和構築プロセス～

Contents

- 01 こんな想いを込めました!
- 02 こんな教材です!
- 03 なぜネパール連邦民主共和国?

第1章 ネパールってどんな国?

= 美しいヒマラヤ山脈と悠久の歴史と
文化を感じる神秘の王国 =

- 05 ネパール基本知識入門
- 07 ネパール ウソ?ホント?クイズ
- 09 ネパールの学校 ウソ?ホント?
- 11 ちょっとブレイク
~ ネパール料理を作ってみよう~

第2章 へえ~! ネパールと日本

- 13 ネパールの遊び
- 15 世界一、日本一の山のゴミ問題
- 17 参考資料「エベレストでゴミ問題を意識する」

第3章 一緒に考えよう! こんな課題

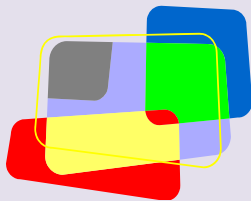
- 21 学校に行きたい!
- 25 内戦の傷跡
- 27 ちょっとブレイク
~ ノートと鉛筆を寄付したお母さんたち~

第4章 そして未来へ

- 29 世界を変えるスピーチ
- 31 この星をこれ以上こわし続けないで
~ 12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ~

参考資料

- 35 目で見るネパール
- 37 ネパール地図
- 39 参考文献・データ等の出典
ご協力いただいた方たち
2009年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

人の顔が見える教材をつくりたい！

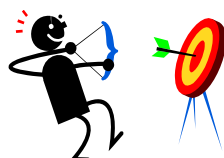
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえそうなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、ネパールのほんの一面です。本書だけでネパールのすべてがわかるわけではありません。ネパールに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

使い方は自由です


とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。













カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



	参加型のプログラムです。必要に応じてコピーし、配布してください。		プログラムで模造紙を使います。
	プログラムに関する説明です。ファシリテーター・先生用です。		プログラムでマジックを使います。
	プログラムのねらいです。		プログラムで付箋を使います。
	ちょっとブレイク！一口コラムです。		プログラムでA4用紙を使います。裏紙等を活用してください。
	プログラムに使う資料です。必要に応じてコピーし配布してください。		データ等の出典です。
	コピーし、カード等に切り離して使ってください。		写真の撮影者です。

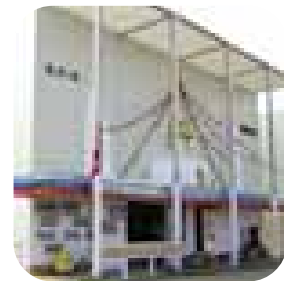
なぜネパール連邦民主共和国？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国フレンドシップ事業」

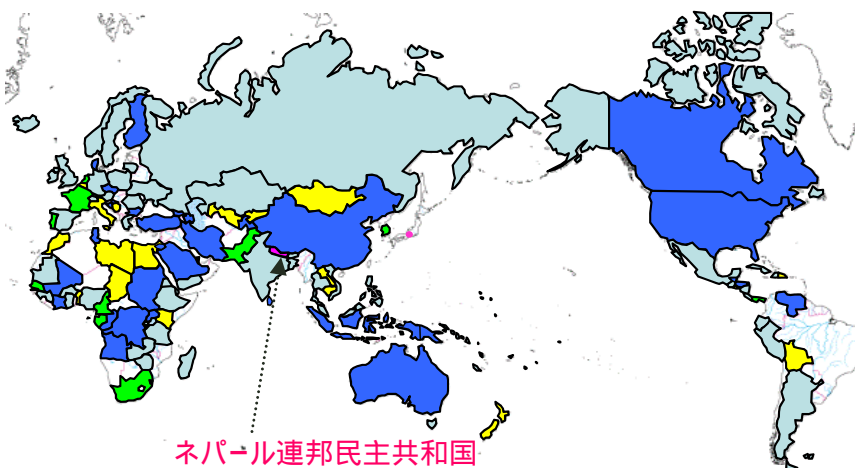
2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国フレンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけでなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国フレンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。そして、ネパール連邦民主共和国のホームシティは、豊田市でした。



愛知万博 / ネパール館



ネパール連邦民主共和国

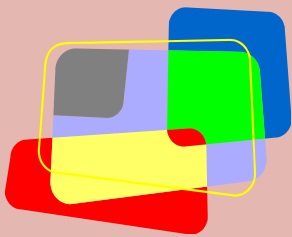
- 本教材
- 2009年度教材作成予定の国
- 2008年度教材作成の国
- 2007年度教材作成の国
- 愛知万博公式参加国

2009年度作成 予定 (33カ国)	アゼルバイジャン共和国 アメリカ合衆国 アンゴラ共和国 イラン・イスラム共和国 インドネシア共和国 ウガンダ共和国 オーストラリア連邦 カナダ グルジア コートジボワール共和国 コンゴ共和国 サントメ・プリンシペ民主共和国 スーダン共和国 スリランカ民主社会主義共和国 タイ王国 タジキスタン共和国 中華人民共和国 チュニジア共和国 デンマーク王国 トルコ共和国 ネパール連邦民主共和国 パプアニューギニア独立国 フィンランド共和国 ブルガリア共和国 ベネズエラ・ボリバル共和国 ベリーズ ボスニア・ヘルツェゴビナ ホンジュラス共和国 マーシャル諸島共和国 マリ共和国 ヨルダン・ハシェミット王国 リトアニア共和国 ルワンダ共和国
2008年度作成 (20カ国)	イタリア共和国 ウズベキスタン共和国 エジプト・アラブ共和国 エルサルバドル共和国 カンボジア王国 キリバス共和国 キルギス共和国 ケニア共和国 サウジアラビア王国 大リビア・アラブ社会主義人民ジャマール・ヒリーヤ国 チャド共和国 ドミニカ共和国 ニュージーランド フィジー諸島共和国 ベナン共和国 ベルギー王国 ボリビア共和国 モロッコ王国 モンゴル国 ラオス人民民主共和国
2007年度作成 (10カ国)	オランダ王国 ガボン共和国 カメルーン共和国 セネガル共和国 大韓民国 パキスタン・イスラム共和国 パナマ共和国 フランス共和国 ポルトガル共和国 南アフリカ共和国



ネパールってどんな国？

= 美しいヒマラヤ山脈と悠久の歴史と
文化を感じる神秘の王国 =



ネパール基礎知識入門

① ? ネパールについてどれくらい知っていますか? まずはネパールの基本から!

① ネパールがどこにあるか知っていますか?



② ネパールはどんな国?想像してみよう!

③ ネパール3択基本知識クイズ!

① ネパールの人口はどのくらい?

A 約300万人 B 約3,000万人 C 約3億人

② ネパールの面積はどのくらい?

A 約15万km² B 約50万km² C 約100万km²

③ エベレストの標高は何m?

A 3,776m B 4,205m C 8,848m

④ ネパールで最大のお祭りの名前は?

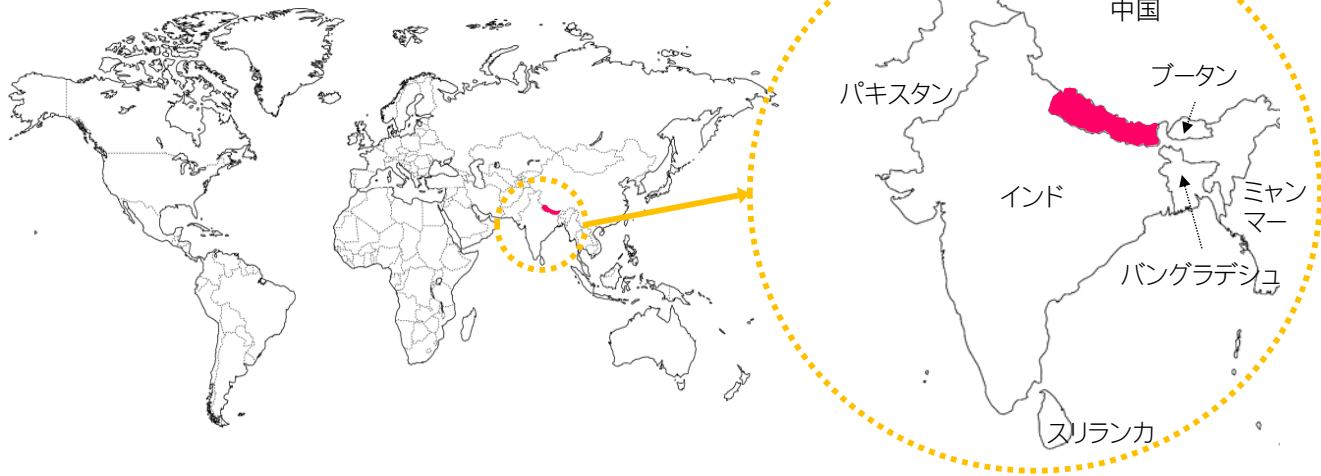
A モサイン B ダサイン C トレイン



エベレストはネパール語で「サガルマータ」と言い、「世界の頂上」、「神々の母」、「大空の頭」と訳されます。



1



2

ネパールは東、西、南3方をインドに、北方を中国チベット自治区に接する細長い国です。

日本と違って内陸国なので、港がありません。1つの国の中に山脈と丘陵地帯と平原があり、それぞれ特徴があって、暮らしぶりや文化が異なる国です。

首都はカトマンズ。多民族・多言語国家ゆえに、日本より面積は小さいですが、色々な文化や民族が共存している国なのです。

3

① A 約3,000万人

日本の人口は約1億3000万人なので、日本はネパールの約4倍の人口ということになります。

② A 15万km²

③ C 8,848m

A.3,776mは富士山、B.4,205mはハワイにあるマウナ・ケア島(火山)の高さです。数字だけ見ても、エベレストがいかに高い山かということが分かりますね。

④ B ダサイン

毎年秋に行われ、日本で言うお正月にとっても雰囲気似ています。

この日は、みんなオシャレをして着飾ります。町もきれいに飾りつけられて、普段とガラッと雰囲気が変わります。特にヒンドゥ教徒にとっては大切なお祭りで、ティカと呼ばれる赤い粉と米粉を混ぜたものを家族や年配の人から、おでこにつけてもらいます。

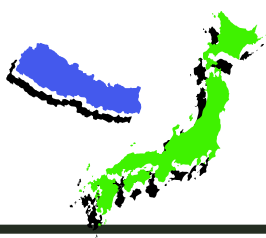
この日は大部分の人が仕事を休んで、家族と一緒に過ごします。



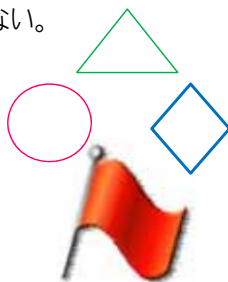
ネパール ウソ？ホント？クイズ

① 全問正解だったら、あなたもネパール博士になれるかも

① ネパールの国土は日本の本州と同じくらいの大きさである。



② ネパールの国旗の形は、長方形ではない。



③ お釈迦様の生まれた場所は、現在のネパールだった。



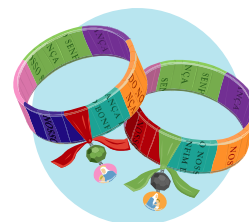
④ ネパールで使われている言語はネパール語とヒンドゥー語である。



⑤ 「エベレスト」は初めてエベレストに登った人の名前に由来している。



⑥ チュラは腕輪、ティカはおでこにつけるアクセサリである。



⑦ ネパールは1年中、雨がたえない。



⑧ ネパール名産のパシュミナは羊の毛からつくられたものである。



⑨ ネパールの主な産業は観光である。



ネパール語で、おはようございます・こんにちは・こんばんは、さようなら…は全て「ナマステ」という言葉が使われます。



- 1** **×**
ウソ ネパールの面積は約147,000キロ平方メートル。これは本州を除いた日本(北海道+九州+四国)にほぼ等しい大きさです。
- 2** **ホント** ネパールの国旗は、長方形ではありません。この特徴的な形はネパール王国のシャア王家と宰相家のラナ家が使っていた2つの三角旗を組み合わせて簡略化したことが由来とされているとか、古代ヒンドゥーの神々によって使われた三角形を模したもの…だと言われています。最も目を引く真紅はネパールの国花であるシャクナゲの色を表わしていて、縁取りの青は平和(海と空)を表わしています。白で描かれているものは月と太陽で、ネパールが月(平和)や太陽(光)と同じように持続し、発展するようにという願いがこめられています。
- 3** **ホント** 仏教を説いた、釈迦ことガウタマ・シッダールタの生地は現在のカピラバストゥ郡ルンビニというところだといわれています。釈迦は紀元前5世紀ごろ、母親であるマヤ・デヴィ(シャカ族の王妃)がお産のために里帰りする途中でルンビニの花園で休んだ時に誕生しました。マヤが花園で無憂樹の花を取ろうとして右手をのびた際、右のわきの下から生まれたと伝えられています。生まれた途端、7歩歩いて右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と話したという逸話も有名です。
- 4** **×**
ウソ ネパールの公用語はネパール語ですが、他にもマイティリ語、ポージュプリー語、タルー語、タマン語、ネワール語、マガール語、アワディー語…などの少数民族の言語が数多く存在します。
- 5** **×**
ウソ エベレストは確かに人名ではありますが、初めて登った人の名前ではありません。エベレストはインド南端からネパールに至る2400kmもの距離を子午線に沿って測量したウェールズ(イギリス)人の名前からとったものです。ちなみに、エベレストの登頂に初めて成功した人はイギリスのエドモンド・ヒラリーとシェルパ(ネパールの少数民族)のテンジン・ノルゲイという人たちが1953年5月29日に成し遂げました。
- 6** **ホント** チュラもティカも子どもから年配の方(女性)がつけるネパールのアクセサリー。基本的にチュラは12個で1セット、ティカも7~8個セットで売っています。
- 7** **×**
ウソ ネパールには雨季がありますが、6月~9月にかけて雨の天気が続きます。スコールという、にわか雨のような強い雨もしばしば降ります。この時期にネパールに行くと雨季のせいでスケジュール通りに予定が進まない可能性が高くなります。
- 8** **×**
ウソ ネパールのパシュミナは主にヒマラヤ付近に生息している山羊の毛を採取してつくられたものを指します。カシミヤより生地が薄く、光沢があるのが特徴です。
- 9** **×**
ウソ 主な産業は農業で、人口の約7割が農業に従事しています。米、トウモロコシ、ジャガイモなどが主な農産物としてあげられます。



ネパールの学校 ウソ？ホント？

① ネパールの子どもたちの学校生活、日本と似てる？似てない？

① 日本では6歳が小学校入学だが、ネパールでは5歳である。



② ネパールの小学校1年生の教室には5歳か6歳の子どもがいるということになる。



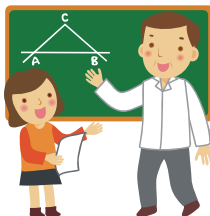
③ 日本の小学校(6年間)よりネパールの小学校の方が短い。



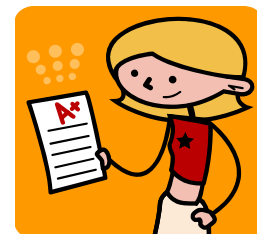
④ ネパールの学校は、年度は日本と同じで4月に始まり3月までである。



⑤ ネパールの義務教育は、中学校の3年間を加えて8年間である。



⑥ ネパールでは、高校卒業時に、全国試験が行われる。



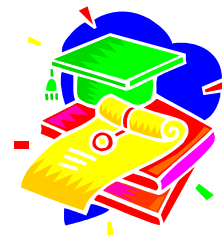
⑦ ネパールでは、その試験の後、大学に入学することになる。



⑧ ネパールに給食はない。



⑨ ネパールの学校は一つひとつの学校で使っている教科書が違う。





- 1 **ホト** ネパールの小学校は5歳から始まります。
- 2 **×ウツ** 日本の学校のように、1年生のクラスにいるのは同年齢の子どもだけとは限らないのです。家庭の事情で、8歳や9歳から小学校に通い始める子もいるし、上の学年にあがれずに落第する子もいます。まだ小学校に上がっていない幼い弟や妹を教室に連れてきて、子守をしながら勉強する子どももいるそうです。
- 3 **ホト** ネパールは小学校入学年齢が5歳なので、日本と同じかまたはむしろ長いのではないかと考えた人が多かったのでは無いでしょうか。実は日本より短い5年間が正解なのです。つまりネパールで、10歳から中学生になるというわけです。
- 4 **ホト** 4月～3月が年度になります。ただし、学期制は取っておらず、従って1学期、2学期というような分け方はされていません。
- 5 **×ウツ** 実はネパールには義務教育はありません。中学校が3年間なのは本当です。ちなみに高校は2年間です。
- 6 **ホト** 高校卒業時には全国試験 (SLC: School Leaving Certificate試験) が行われます。その成績が大学入学だけでなく、公務員になりたい人の採用試験にも影響する重要なものとなっています。
- 7 **×ウツ** ネパールの教育制度は、5・3・2・2・3～5制。小中高のあとの2年は「テンプラスツー (10+2)」と呼ばれる、大学入学前教育を行う期間になります。
- 8 **ホト** 給食はなく、弁当持参が原則です。昼食で家に帰る子どももいます。
- 9 **×ウツ** ネパールの公立学校 (小・中・高校) では、全国同一の国定教科書で授業が行われます。



ネパールの授業風景

三井昌志



高校の運動会風景

畠 博之



ちょっとブレイク



ネパール料理を作ってみよう！

ネパール料理といっても色々ありますが、今回はネパールのモモというネパールのぎょうざを簡単につくってみましょう！

【材料(2人分)】

- ・市販のぎょうざの皮…1袋
- ・豚ひき肉…250グラム
- ・玉ねぎ…1/2個
- ・万能ねぎ…1/3束
- ・しょうが・にんにく…少々
- ・クミンパウダー、コリアンパウダー、ガラムマサラ、ターメリック…小さじ1
- ・チリパウダー小さじ…1/4
- ・ごま油…大さじ1
- ・塩・こしょう…小さじ1弱

【タレの材料】

- ・トマト…2個
- ・玉ねぎ…1/2個
- ・ヨーグルト100グラム
- ・ターメリック、チリパウダー、しょうが、にんにく…少々
- ・塩…小さじ1



 ウィキペディア

- ①玉ねぎはみじん切りに、万能ねぎは小口切りに、しょうがとにんにくはすりおろします。
- ②ボールに餃子の皮と万能ねぎ以外を入れて、よく混ぜ合わせる。その後万能ねぎを入れて混ぜる。
- ③餃子の皮に具がはみ出ないように入れて、中心に向かってひだを作りながら包み、最後に頂点をひねる。
- ④蒸気の上がった蒸し器で10分ほど蒸す。生地表面にツヤが出て、色が少し黄色くなったらできあがり！

【タレ】 少しピリ辛のタレにつけて食べるのがネパールのモモなんです！

トマトは皮をむき、ザク切りにして玉ねぎ・ヨーグルトとともにミキサーにかける。

フライパンにサラダ油を熱し、しょうが・にんにくを炒める。

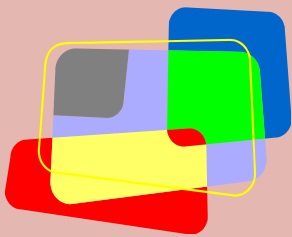
香りがたったらチリパウダー以外の材料を全て加えて、弱火で約10分煮つめる。最後にチリペッパーを加えて、できあがり！

※スパイスはお好みのもので、アレンジしてみてください!!!



第2章

へえ～！ネパールと日本




ネパールの遊び

① このページではネパールの子どもの様々な遊びをご紹介します。あれ、これはどっかで見たことがあるな。そんな遊びがいっぱいです。日本のどの遊びに似ていると思いますか。考えてみましょう。

5つの石

- ① 5つの石を床に置き、1個上に投げて落ちてくるまでに、下に置いてある石を1つ拾い、落ちてきた石を受け止めます。
- ② うまくできたら、次は拾う石を2個、3個・・・と増やしていきます。

 志免町ウェブサイト


ネタチンネ

- ① 鬼を1人決める。
- ② 鬼に分からないよう、他の人はリーダーを1人決める。
- ③ みんなは輪になって内側を向き、鬼は輪の外からみんなを見る。
- ④ リーダーは自分の好きな動作をする。例えば鼻をつまむ、頭をかく、舌を出す、といった動作をする。みんなはリーダーと同じ動作を真似する。
- ⑤ 鬼は誰がリーダーか当てる。

チュンギー


- ① 1人で、2人で、または数人で遊ぶ。
 - ② 蹴鞠やサッカーのリフティングのように足で蹴って遊ぶ。主に足の内側を使う。
- ※市販の輪ゴムで作るのが普通です。写真はサンダルの鼻緒のプラスチックをつないで作ったものです。



 畠 博之 氏ウェブサイト

歌いながらの手遊び

- ① 2人で向かい合う。
- ② 「チューチュカチューチュカ (とりが鳴いている様子を表している)」
両手の5本の指をそろえて鳥のくちばしを作り、お互いに指先をつき合う。
- ③ 「ハローベビーハイベビー (ハロー赤ちゃん、ハイ赤ちゃん)」
手のひらを広げ、親指をほまに当てて、手のひらをひらひらさせる。片手ずつ行う。
- ④ 「キャットピティ (相手をたたいて)」 右手で相手の頭を軽くたたいて、
- ⑤ 「ソーリーバニー (ソーリーごめんねと言って)」 両手で耳をつまむ。
- ⑥ 「イス イス イス (意味なし)」 両手の平を相手に合わせ、下に下げる動作を3回行う。
- ⑦ 「サーラララ (意味なし)」 両手を自分の方に添え、1回下になぜる。
- ⑧ 「ディス (意味なし)」 肩を相手とぶつけ合う。

 JOCS日本キリスト教海外医療協力会ウェブサイト

※ YouTubeに動画があります

魚とカエル(マチャ プヒューグト)

- ①2人のうち、1人が鬼になる。
- ②鬼ではない1人が鬼の目の前に人差し指(魚=マチャ)を上に向けて出し、「マチャ、マチャ」といいながら左右に激しく振る。ただし、この時振っているのは指だけで、手は動かさない。
- ③鬼は相手の人差し指をつかもうとする。
- ④相手は、鬼が人差し指をつかみに来たら素早く指を親指(カエル=プヒューグト))に変える。
- ⑤鬼が人差し指をつかむことができたなら、鬼の勝ち。親指をつかんでしまったら、相手の勝ちになる。

ネパールの罰ゲーム


日本でも、勝った人が負けた人に「罰」を行うことがありますよね。しっぺ、だとか、はねつきの時の顔にすみをぬる、だとか。同じように罰ゲームがネパールにもあるのです。

(1) 針

鬼は片手で負けた人の人差し指を握りしめ、出ている指先をもう一方の手の人差し指と親指の爪でつまみます。

(2) 糸

鬼は、負けた人の人差し指を両手の手のひらにはさんで、前後にゴリゴリとこすり合わせます。

 「アジアの遊び2 / 国際理解にやくだつ世界の遊び」ポプラ社 大貫 美佐子

* おもしろそうな遊びはありましたか? 日本の遊びと似ている遊びはありましたか?
もし、ネパールの子どもたちに、日本の遊びを紹介するとしたら、どんな遊びを紹介しますか?



ちょっとブレイク



クマリとはネパールに住む女神クマリの化身のこと。密教女神のヴァシラ・デーヴィー、ヒンドゥー教女神のドゥルガーが宿り、ネパール王国の守護神である女神タレジュの生まれ変わりとしており、国内の少女の中から選ばれます。

クマリの中でも首都・カトマンズにある、クマリの館に住むロイヤル・クマリが最も有名で、クマリはこのロイヤル・クマリと村や町に多数存在するローカル・クマリの2種類が存在します。

ロイヤル・クマリは、第一に家柄が重要で、ネパール族の仏教徒の僧侶・金細工師カーストのサキヤ(Shakya)の生まれでなければいけないと決まっています。そして体に怪我の跡や不自由な箇所がないことや国や国王との占星術における相性が良いというのも条件です。最も過酷ともいえるのが、いくつかの条件を満たした少女たちが、暗い小部屋に通されてしばらく閉じ込められる選抜のとき。その部屋にはたくさんの動物の頭部がおりてあり、たいいていの少女は泣き出してしまいますが、その中でも泣かずに耐えた少女が選抜されていくのです。

他にも32の条件をクリアしなければクマリにはなれません。たとえば、「健康である」「全ての歯が欠けていない」「菩提樹のような体」「牛のようなまつげ」「獅子のような胸」「アヒルのように柔らかく透き通った声」「黒い目と髪」など。

クマリは絶大な力を持っていて、幸運をもたらすとされ、多くの人々からの信仰を集めています。9月に行われるインドラ・ジャトラのお祭りではクマリが主役となり、ネパール国王がクマリの元を訪ねて、祝福のティカ(赤い粉と米粉を混ぜておでこにつけるヒンドゥー教の儀式)を受けます。お祭りで人々の前に山車に乗って現れるときは、カトマンズの人々に繁栄と成功の力を与えると信じられていて、たくさんの人がこの恩恵を受けようと集まってくるのが恒例です。普段は人々の病気を治療、願望をかなえる祈願をします。

このような役割を持つクマリは学校に行くことは不可能(外出も不可能)であるため、カトマンズのクマリの館で侍従たちに囲まれて暮らします。特別な儀式以外は外出はせず、クマリの館の中で生活をします。勉強も館の中で行いますが、友人と館の中でなら遊ぶこともできます。

観光客は、受付で拝観料を払うことで、中庭から顔を出すクマリを数秒間だけ拝顔することができます。

世界一、日本一の山のゴミ問題

① ネパールと言えば、エベレストで有名です。日本の富士山も世界的に有名です。どちらも美しい山ですが...

P.17の文章は、日本の登山家である野口健氏の書いたものです。野口氏はこの文章にある経験を皮切りに環境問題への意識を強く持つようになり、その後もエベレスト、マナスル、富士山などの清掃登山を精力的に続けています。野口氏の文章を読んで、以下の問いに答えましょう。

① 次の3つの山のうち、世界で最も高い山はどれでしょう。

A チョモランマ B エベレスト C サガルマータ

② 下線部の「信じられない光景」とは何でしょう。本文から40字以内で抜き出しましょう。

③ ヨーロッパの隊員が「日本は経済は一流だけど、文化、マナーは三流だ」と言ったのはなぜでしょう。

④ 登山家達が置いてきたゴミは標高の比較的低いところと高いところで違って、2種類あると書かれています。それぞれについてどんなゴミなのか、説明しましょう。

⑤ 登山家達は、なぜゴミを山に置いてきてしまうのでしょうか。理由を箇条書きで書きましょう。

⑥ この1997年に初めて野口氏がエベレストに挑戦したとき、実はもう一つ気になる言葉を言われました。それは「お前ら日本人は、ヒマラヤをマウントフジにするつもりか」というものでした。この言葉の意味はなんなのか、グループで相談して考えてみましょう。

⑦ 同じような「ごみ問題」は、あなたの近くで起こっていませんか。グループで相談して、書き出しましょう。書き出したものは、発表してみましょう。

⑧ このようなごみ問題をなくすために、自分には何ができるでしょう。1人ひとりが考えてみましょう。



① 実はこれ、全て同じ山の名前なのです。エベレストとは、インド測量局の長官を務めたジョージ・エベレスト(George Everest) にちなんでイギリス人がつけた名前です。現地名は、チベットでは「チョモランマ」、ネパールでは「サガルマータ」と呼びます。ネパールでの名称であるサガルマータは、「世界の頂上」という意味です。なお、エベレストの標高は8,848mで世界一。2位のK2は8,611mとなっています。



② 「七千メートルを超えて、明らかにつらいにも関わらず、彼らがゴミを拾い出したのだ。」



③ 岩陰には韓国隊のゴミよりもはるかに多い、日本語が書かれたゴミが高く積まれていたから。

④ 低いところ: 私たちが普段生活しているのと変わらないゴミ。生ゴミ、プラスチック、ダンボール、瓶、缶といったように日常生活で出るゴミと何ら変わりがないもの。

高いところ: テント、ロープ、酸素ボンベといった登山道具。標高の高いところではアタックをかけるため、1泊か2泊というように滞在日数が短く、日常生活で出るようなゴミは少ない。



- ⑤
- 下山をする際に少しでも負担を軽くしようとするため。
 - 輸送費などのお金がかかるので、金銭的な負担を減らすため。
 - ゴミを捨てるということに何の疑問も抱かない人もいるため

⑥ 今回紹介した野口氏の文章には、続きがあります。(→P. 19)

- ⑦
- 教室にゴミがたくさん落ちているのに誰も拾わない。
 - 公園に、ゴミが捨ててある。
 - お祭りのあとに、ゴミがゴミ捨て場からあふれ出ている。
 - 道路の中央分離帯にタバコや空き缶がたくさん捨ててある。
 - 給食の残りがとてもたくさん出る。
 - 自分の車のゴミをコンビニとかで捨てている人がいた。

などなど、たくさん出てくるのではないのでしょうか。



参考資料

エベレストでゴミ問題を意識する

私は今年で登山を始めて十六年目だが、その内の十二年間は環境ということをもっと考えずにひたすら山頂を目指していた。正直に告白すると私自身、これまで山にゴミを置いてきている。缶や瓶などといった、明らかに残ってしまうゴミはあまり置いてきてはいないが、最も厄介なゴミを世界各地の山に残してきた。それが糞尿だ。当時、糞尿がゴミになるという認識はなかった。しかし糞尿こそが厄介なのだ。氷河上にはバクテリアが存在しないため、糞尿は分解されず、そのまま残ってしまう。そして水源が汚染されてしまうのだ。



野口氏(左)

ゴミの問題を初めて意識したのは一九九七年に初めてエベレストに挑戦したときだった。事前にビデオやテレビ番組、写真集などあらゆるエベレストに関する情報を頭に叩き込み、イメージトレーニングを重ねた。しかし私が降り立ったエベレストはそのイメージを覆すものだった。ベースキャンプの至るところにゴミが散乱しており、白銀の厳しい世界とばかり思っていた私は正直、面食らった。ただその驚きも長くは続かなかった。この年は遭難者が続出して、多くの方が命を落とした。私はただただ頂上を目指し、生きて帰ってくることに精一杯で、ゴミどころではなかった。

しかしそのときに**信じられない光景**を目にし、自分も経験することになる。私はこのとき国際公募隊の一員として参加していた。故に欧米の登山家たちとパーティーを組んで登っていたのだが、七千メートルを超えて、明らかにつらいにも関わらず、彼らがゴミを拾い出したのだ。このときの驚きは筆舌しがたい。一キロでも荷物を軽くするためにあらゆる戦略を練るのが普通なのだが、彼らはゴミを回収している。

「何でここまでやるんだ」と思い、正直、その行動の意味が理解できなかった。

アタックに備え、ベースキャンプで五日間、身体を休めることになった。私はほっとしていた。しかし隊長のラッセル・ブライス氏が突然に「五日間あるから、ベースキャンプの周りを清掃しよう」と言い出した。私は疲弊ききっており、「冗談じゃない」と思っていた。「ノー」といおうとしたが、他の隊員が「グッドアイデア!!」なんて盛り上がり、ケン、お前も来るか?」といわれ、思わず「イエス・オフコース」と言ってしまった。

(中略)

しばらくすると長年付き合っていたシェルパ(案内人)が「ケン、こっちにこい」と強い口調で言った。彼らは普段、非常に穏やかだから、「何か変だな」と思いながらついていった。彼は岩陰まで私を連れて行ってくれたのだが、そこには韓国隊のゴミよりもはるかに多い、日本語が書かれたゴミがうずたかく積まれていた。

それを見たヨーロッパの隊員が今度は打って変わって、日本の文句を言い始めた。日本隊が残していったゴミを指差し、「日本は経済は一流だけど、文化、マナーは三流だ」と言った。私は非常に憤慨した。このゴミは過去の日本隊が捨てたゴミであり、日本隊のマナーが悪いということであれば「ソーリー」ですんだのだが、一部の日本の登山家達が置いてきたゴミを指差して「これがお前ら日本だよ」と言われたことが承服できなかった。

(中略)

しかしエベレストの日本のゴミを前に、私は一切の反論ができなかった。結局、そのときは登頂も果たせずじまいだった。帰国後の記者会見の席で私は「登頂できなかったのはつらかったけど、エベレストには日本隊の捨てたゴミが随分あって、それで日本を否定されたのがもっとしんどかった」とコメントした。別にこのときゴミを回収しようと思っていたわけではない。ただついついゴミの問題に触れてしまったに過ぎない。

(中略)

エベレストのゴミは、大きく分けると二種類あった。比較的標高の低いベースキャンプには、私達が普段暮らしている中で出るゴミと何ら変わらない。エベレストに挑戦する際には、徐々に高所に身体を慣らしていくため、二ヶ月ほど滞在する必要がある。つまり生活をエベレストに持ち込むわけだから、生ゴミ、プラスチック、ダンボール、瓶、缶といったように日常生活で出るゴミと何ら変わりはない。


標高の高いところに行くと、テント、ロープ、酸素ボンベといった登山道具が変わっていく。標高の高いところではアタックをかけるため、一泊か二泊というように滞在日数が少ないから、日常生活で出るようなゴミは少ない。八千メートルの世界では、生命の危機に瀕する場合も多々ある。故に下山をする際に少しでも負担を軽くしようと荷物を置いてきてしまう。その気持ちはよくわかる。私自身、酸素ボンベを三本、山頂直下においてきたことがある。ただあの時はどうしてもおろせなかった。死んでまでゴミを持って来いとは思わない。その罪滅ぼしではないが、私はその後、酸素ボンベを五百本回収した。

やむをえないゴミもあると思う。ただ標高の低いところは、その処理はどうにでもなる。ゴミを持って帰るには輸送費などのお金がかかるため、金銭的な負担を減らすために置いていくケースと、ゴミを捨てるということに何の疑問も抱かない人もいる。中でも非常に印象的だったが、ゴミを捨てる隊と捨てない隊は国によって分かれるということだ。ちゃんとゴミを持って帰るのはドイツ、デンマーク、ノルウェー、スイスといった国で、ガバっとゴミを置いて帰るのは、日本、中国、韓国、インド、ロシアといった国々だ。

環境教育が進んでいる国は国自体もきれいで、ゴミの問題にもしっかりと取り組んでいる。逆もしかりだ。私は当初、日本隊の捨てていったゴミを見て、日本の登山家のマナーが悪いと感じていたけど、そんなちっぽけな問題ではなく、結局は国民性の問題であり、その国の教育が問われているということに気づいた。

四年間、エベレストの清掃登山を行ってきて、最も嬉しかったことがある。昨年、最後の清掃登山に行ったときのことだ。東京農業大学の山岳部のメンバーがエベレストに挑んでいたのだが、彼らは徹底的にゴミを持ち帰っただけでなく、ベースキャンプで食器を洗う際に、汚水を出さないために、フィルターをかけてから水を流し、トイレもしっかりと持ち帰っていた。更に彼らは登頂も成し遂げた。彼らは他の国々の登山家からも評価が非常に高かった。七年前には「日本は経済は一流だけど、文化、マナーは三流だ」と言われたことを考えるとこれが大きな前進だ。日本から環境を意識した登山隊が出てきたことが正直、ものすごく嬉しかった。彼らの姿はこれからまさしく日本が変わっていくんだということを象徴していたと思う。

(以下略)

 野口健公式サイト 野口健よりメッセージ 2004:4/16分より



『一九九七年に初めてエベレストに挑戦したとき、実はもう一つ気になる言葉があった。「お前ら日本人は、ヒマラヤをマウントフジにするつもりか」というものだ。

私は当初、この言葉の意味がわからなかった。私達のような登山家は、大抵、冬の富士山に登る。冬の富士山は一面が氷河に覆われ、一面が銀世界。ゴミなどなかった。僕の知っている富士山はそういう世界だった。故に彼の言葉の意味がわからなかったのだ。

エベレストの登頂を終え、ふと九七年にヨーロッパの登山家が言っていた不思議な一言を思い出し、初めて夏の富士山に登った。そこには私がこれまで見てきた冬の富士とはまるで異なる姿があった。

富士山に登る方の大半は五合目まで車で移動するのだが、まず驚いたのが、渋滞ができていること。私は渋滞があれだけ起きている山を見たことがない。更に五合目にはまるで原宿の竹下通りにあるようなお店がたくさんある。疲れた登山者を乗せるための馬もいて、登山道は馬糞だらけ。山小屋も全部ではないが、まるでバラック小屋のような雰囲気、ぎゅうぎゅうにお客を入れて、接待も悪い。

そして山小屋の裏にはゴミが大量にある。トイレも垂れ流しの状態で岩肌にはペーパーが絡みつき、カピカピに乾燥して岩肌の一部になってしまっている。富士山にはシーズンには三十万人から四十万人もの人が集まる。その人たちの糞尿がただただ垂れ流されているのである。考えただけでもぞっとする。

中でも一番、驚いたのが山頂である。世界中の山を見てきたが、山頂に立った瞬間に自動販売機が、「パンパン」と並んでいる光景を見るのは初めてだった。ヨーロッパの登山家の言っていた一言の意味がよくわかった。

(中略)

しかし問題はまだある。一つは樹海だ。県道沿いから様々なゴミが捨てられている。たとえばドラム缶、廃材、タイヤ、車、生活用品、家電製品、トラックなどだ。以前、地元のNPO団体である「富士山クラブ」がドラム缶を二百数十本回収した。ドラム缶の中には硫酸ピッチが入っていたが、その大半が、流れ出していたという。実際に私達も樹海の清掃をした際に、土壌がヘドロのような臭いで、ひどく汚染されていたことに衝撃を受けた。周辺のゴミは全て回収したものの、土壌までは救えなかったのである。どのように土壌の汚染を食い止め、改善していくか。私には正直、その方法がわからない。』



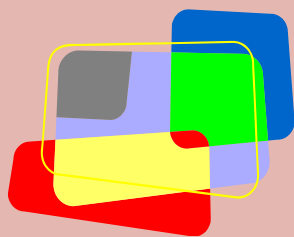
ウェブサイト「からつづ」～富士登山の記録



特定非営利活動法人 富士山クラブウェブサイト



一緒に考えよう！こんな課題



学校に行きたい！

① ネパールには学校に行きたくても行けない子どもたちがいます。なぜ、そんなことになってしまうのでしょうか？



- ① 日本にはどんな種類の学校があるでしょう。
- ② 皆さんは、学校に来る目的は何ですか？ または、何が楽しみで学校に来ていますか？
グループで考えて、できるだけたくさん出しましょう。
- ③ 下の絵は、ネパールの子どもが描いた絵の一部です。何をしているところだと思いますか？想像して答えましょう。



④ ネパールの現状を数字で想像してみましょう。机の上の用紙にある数字を指さしてみましょう。

10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

- A : 若者(15~24歳)の識字率
- B : 小学校の就学率
- C : 小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率
- D : 中学校の就学率

⑤ ネパールの子どもの多くが学校に行けないのはなぜでしょう。グループで相談して、できるだけたくさん理由を考えましょう。

<h3>貧困</h3> <p>ネパールの貧困比率(困窮ライン以下で暮らす人の割合)は55%である。</p>	<h3>学校</h3> <p>学校が近くにない、働かなくてはいけない、などの理由で学校に行けない子どもが多い。</p>	<h3>栄養が十分にとれない</h3> <p>食物が十分に手に入らなかったり、栄養のバランスのよい食事について知らなかったりする。</p>	<h3>職業技術</h3> <p>十分な教育を受けておらず、読み書き計算や職業に必要な技能を身に付けていない。</p>
<h3>栄養不良</h3> <p>必要な栄養がとれないと子どもは栄養不良になる。また、衛生的ではない水などのため、下痢を引き起こして栄養不良になる子どもも多い。</p>	<h3>失業</h3> <p>生活に必要な収入を得る仕事に就けなかったり、工夫して収入を増やすことが難しかったりする。</p>	<h3>健康</h3> <p>抵抗力が弱いために、病気になったり、病気がひどくなったりすることが多い。衛生的な水へのアクセスができる人はネパール全体の89%である。</p>	<h3>収入</h3> <p>基本的な衣食住をまかなうことができない。子どもを労働力と考え、貧困の中でも子どもを多く持つとする。</p>

 『開発のための教育～地球市民を育てるための実践ガイドブック』(ユニセフ)

5 人々はなぜ貧困から抜け出せないのでしょうか。「貧困の輪」というワークショップをやりながら、貧困と学校について考えてみましょう。

配られた8枚の貧困カードをグループ内で読み合い、どのようなカードがあるのかを知ります。

8枚のカードはそれぞれ因果関係があります。つまり、どのカードも他のどれかのカードの理由になっており、また、結果になっています。まず、「貧困」のカード一番上に置き、グループごとに話し合いながら、他の7枚のカードがどのような因果関係でつながっているかを考えてカードを模造紙の上に円形に並べていきます。

並べ終わったら、カードを模造紙に貼りましょう。貼ったカードは原因から結果へと矢印を書いてカードをつなぎます。

黒板に模造紙を掲示し、グループごとに出来上がった図と、その理由を発表しましょう。


このように、互いが原因・結果の関係になり、輪になっている図を循環図と言います。図を一周回って来た貧困は、最初に置いた貧困と比べてなにか違いがあるでしょうか。

このように、循環すればするほど悪くなるものを悪循環と言います。悪循環は、逆に言えばどこかでその循環を断ち切れれば好循環に変えることもできます。どこをどう断ち切れれば、この貧困の悪循環を止め、よい循環を産み出すことができるでしょうか。掲示した循環図をもう一度、グループの手元に持ってきましょう。そして循環図のどこでもよいので、自分たちならどこを断ち切るか、相談してみましょう。その上で、どう断ち切るのか方法を考え、図に書き込みます。

全てのグループが作業を終えたら、他のグループの考えた方法を見て回しましょう。その時にもし具体的によく分からないものがあったら、後で質問しましょう。

以上のワークショップを終え、感じたこと、考えたことを文章にして書いてみましょう。書き終わったら、お互いの作文を交換して読み合い、友達の考えを知りましょう。

なお、人口100人あたりの電話の台数はネパールが4台、日本が79台、インターネットはネパール1台、日本68台、平均寿命はネパール64歳、日本83歳となっています。

 『世界子供白書2009』(ユニセフ)



P.21～22のこたえと解説です。



まずは「知らないこと」に気づくことから始めましょう。


- ① 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、朝鮮学校、大学、大学院、職業高校、専門学校、美容学校、理容学校、看護学校、予備校、学習塾、などたくさんあります。
- ② 勉強して色々な知識を身に付けたい!
大きくなったらなりたいものがあるから、勉強を頑張ってます!
学校来ると、友だちや先生に会えて楽しい!
毎日の給食が楽しみ!
部活やクラブでいっぱい練習して、試合で勝ちたい!
図書室で毎日、本を読みたい!

これまたいろいろあるでしょう。

- ③ 元の絵はこれです。



正解は「石切り場で働いている」です。この絵をかいた子は、いわゆるストリート・チルドレンで、両親が離婚、蒸発してしまい一人になってしまった子どもです。普段は路上や軒下で他のストリート・チルドレンたちと暮らして、建設現場の石切り場で働くことによって生計を立てています。こういった学校に行けない子どもたちがネパールにはたくさんいます。

 NGOコピラ・ネパール主催「児童画コンクール」作品

- ④ **A** 若者(15～24歳)の識字率……………男85% 女73%
識字率とは、字の読める人の割合のことです。
- B** 小学校の就学率……………男91% 女87%
就学率とは、小学校に就学する年齢の子どもの総人口における、小学校に就学した子どもの割合のことです。
- C** 小学校に入学した生徒が最終学年まで残る率……………男81% 女95%
小学校の1年生に入学した子どもが、最終学年(ネパールの場合は小学校5年生)まで達した割合です。
- D** 中学校の就学率……………男46% 女41%

5 いろいろな原因がありますが、主なものをあげると...

第一に、**学校の数が絶対的に不足**しています。つまり、学校に行きたくても学校がない地域が多数存在するという問題があります。ネパール政府は外国の支援を受けて、学校教育の普及に努力しています。日本政府も「万人のための教育」政策にそって多額の援助をしていますが、**辺境の農山村部では依然として学校のない村が多数あるのが現状**です。

第二に、**ネパール国民の絶対的な貧しさ**が原因になっています。農山村部ではほとんどの家族が**困窮ライン**(1日1ドル以下で暮らす)以下の生活を送っています。都市部や海外への出稼ぎに行く家族も多く、幼い子ども達でさえ重要な労働力になって家計を支えている実情があります。そういった理由により、学校に行かせるどころか、働かせなくては食べて行けない家庭が多いのです。

第三に、**教育に対する親や地域の意識の問題**があります。ネパールでは母親の3人に2人までが自分が学校教育を受けたことがなく、一般に教育の重要性への理解は高くありません。学校に行けない子どもの家庭の典型は、**カースト**(ヒンドゥー教にまつわる身分制度)で最も低いとされる「**ダリット**」階層の小作農(土地なし農民)や少数民族の家庭であり、お金を払って子どもを学校に行かせる意義が分からない家庭が多いのも事実です。

循環図やその悪循環を断ち切る方法は、子どもたちの考え方によって変わってきます。この循環図に正解はありません。異なる意見があったときには、どのように考えたのかを話し合い、お互いの考え方を理解することが大切です。

貧困が貧困を生み、そしてその貧困は益々ひどくなっていく。これを**プアーズ・トラップ**(Poors Trap 貧困の罠)とも言います。このワークショップは、その貧困の恐ろしさを理解すると同時に、学校のもつ大切さを考えてもらうアクティビティです。

6 正解はありません。異なる意見があったときには、どのように考えたのかを話し合い、お互いの考え方を理解することが大切です。

貧困が貧困を生み、そしてその貧困は益々ひどくなっていく。これを**プアーズ・トラップ**(Poor's Trap 貧困の罠)とも言います。このワークショップは、その貧困の恐ろしさを理解すると同時に、学校のもつ大切さを考えてもらうアクティビティです。

ちょっとブレイク

～愛知県のとある高校の「ネパールに学校を作ろう！」プロジェクト

岡崎城西高校ICC(国際協力クラブ)の生徒達は、地域のNGOの活動を手伝うだけのクラブ活動に飽き足らず「自分達の手で何かデッカイことをやってみたい」と言い出し、顧問の先生がネパールのNGOと親交があったことなどから「ネパールの子供達に教育の機会を!」というキャンペーンを開始しました。

その後、生徒達の企画が、学校法人安城学園90周年記事業として採択され、学校建設予算がつく事態になって始めて生徒達が「もう、やるしかない!」と言いはじめ、文化祭でネパールの子供達の厳しい現状を学び、ネパールの現地「コピラ・ネパール」と学校建設に向けた本格的な相談を始めました。

以降、ネパール社会、政治、宗教を可能な限り身を持って学び、あくまでもネパールのもっとも恵まれない人々の自立への歩みに寄り添うという、全ての過程が試行錯誤、あらゆる行程が初めての体験という高校生の挑戦が続き、現在はLENP(Love Educated Nepal Project)委員会としてネパールの2つの小学校を支援(建替、改修、増築、住民による学校運営等)しています。

- ・タナフン郡マジラン村・ジャナ「ジャウクマーリ小学校」
- ・カスキ郡ラハチョーク村・「ジャナ・ジャガラン小学校」



内戦の傷痕

① ネパールでは内戦によって、亡くなった人や傷ついた人が大勢います。内戦が起こることによって、人々の生活はどうになってしまうのでしょうか。

① 下の絵は、ネパールの子どもが描いたネパール内戦の絵です。この絵を見て分かること、想像することをグループで話し合い、箇条書きにできるだけたくさん書き出しましょう。



② もし今、日本の私たちが暮らしている地域で内戦が起こったら、私たちの暮らしはどうなるのでしょうか？ 派生図を描いて考えてみましょう。

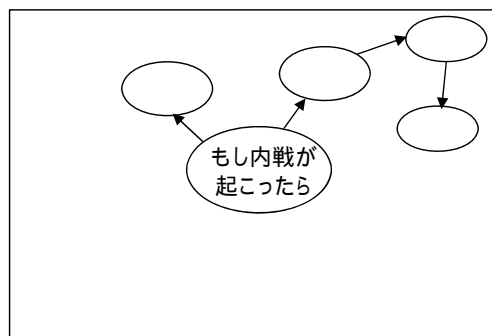
模造紙の中央に「もし内戦が起こったら」と書き、丸で囲みます。

その円から矢印を出し、もし内戦が起こったらどんなことが起こるだろうと考えて書き出していきます。中央の円から7本以上、矢印を出しましょう。グループのメンバーが1人ひとりがペンを持ち書いていけばよいのですが、書くときは必ず声を出してその内容をグループの友達に伝えましょう。

さらに考えを深めます。中央の円から出てきた矢印の内容から、その内容のことがおこるとさらにどうなるか考え書き出します。できれば最初に書き出したものから2段以上、深めていきましょう。

完成したら他のグループがどうなったか見てみましょう。

やってみて気づいたことや感想を言いましょう。





ネパール内戦について

ネパールでは1996年から12年間にも及ぶ内戦で13,000人も犠牲者が出たといわれています。

もともと、王制(王様が1番権力を持っている状態)だったネパールでしたが、1996年にネパール共産党毛沢東主義派(マオイスト)が、「王政打倒」を目指して人民戦争を開始しました。それがネパールの内戦の始まりでした。そして、以後2006年まで11年間にわたってマオイストと国軍の間に激しい内戦が続いたのです。現在は2006年に締結された包括的和平合意によっておさまっていますが、国際連合ネパール支援団(UNMIN)によって停戦監視が行われている状況です。

内戦時、マオイストはネパールの辺境山間部をほぼ支配し、都市部でも労働組合・知識人層にも支持者を広げ、独自の政府を持つ状況になりました。内戦の長期化により、双方の死者及び内戦に巻き込まれた一般人を含めておよそ13,000人が犠牲になりました。

農村部では、マオイストの支持者とみなされて国軍によって殺されたり拷問を受ける人たち、逆に国軍のスパイとみなされてマオイストに殺される人たちもいました。時には政府軍が掃討作戦を行うと、マオイストが学校に立てこもって抗戦し、学校が破壊されたり、生徒の犠牲が出たりすることもありました。国民の間に、特に辺境の農山村では、その内戦の犠牲になった人たちの遺族が多数いて、心に大きなトラウマを負う子ども達が今も多数いるのです。

左のページの絵は内戦の傷跡を示す、あるネパールの子どもが描いた絵です。現地のNGO団体、コピラ・ネパールが子どもたちの心の傷をケアしようと「児童画コンクール」を行っています。この絵は2006年にネパール中西部カスキ郡とタナフン郡で行った「児童画コンクール」の作品の一つです。それまで、小学校のカリキュラムに芸術科目のなかったネパールで、児童にクレヨンや色鉛筆・画用紙を与えて、心の中にある悲しみを表現してもらおう試みは今も続いています。

他にもこのような絵が内戦の酷さ、惨さを表しています。





ちょっとブレイク



ノートと鉛筆を寄付したお母さんたち SCJ(セーブ・ザ・チルドレン)ネパール事務所代表 定松栄一 氏

「それって、ひょっとして、昨日寄付を申し出てくれたノートと鉛筆なの?」

研修4日目の朝、小学生のお母さんとおぼしき女性二人がノートと鉛筆の束を抱えて会場に現れたのを見て、私は思わず声をかけた。

ここはネパール西部平野のダン郡にあるブカリヤ小学校。今年(2007年)7月から、(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)は、日本NGO連携無償資金協力の支援を受けて「武力紛争の影響下にある子どものための教育事業」を開始した。

11年に及ぶネパールの内戦は子どもたちや教育にも大きな影響を与えた。戦闘に巻き込まれて親や兄弟を亡くした子どもたち、学校そのものが兵舎に使われたり少年兵のリクルートの拠点になったこともある。昨年11月に和平合意が成立し、ようやく村の再建のための活動が各地で始まった。学校も例外ではない。

疲へいた校舎の修復も必要だが、それ以上に大切なのが子どもたちが安心して勉強できる環境づくりだ。内戦の被害を受けて生活の苦しい農村ほど、親は子どもを学校に通わせずに農作業や家事を手伝わせようとする。通学が許されても、ノートも鉛筆も持たずに登校する子どもたちが跡を絶たない。これではいくら勉強したくても、できない。

「教育は子どもの大切な権利、それを守るのは村全体の責任。皆が力を合わせなければ学校の再興はおぼつかない」そのことを分かってもらうために5日間の研修を開催した。

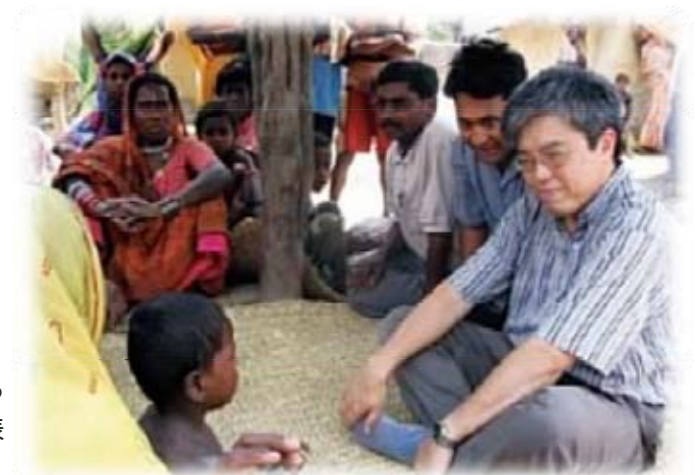
研修3日目。村人全員が集まり校庭に村の地図を描いた。村の近くを流れる川にすむ魚や森からとれる材木など身近な物でも有効に活用すれば学校を支える財源になる。それでも学校の維持費をねん出するのが精一杯で、机・椅子や文房具を買うための資金には足りない。村人を前にSCJのネパール人スタッフが言う。

「この学校のために私は個人的に100ルピー寄付します。皆さんも一人ひとりが学校のために何ができるか考えてください」

「お金は出せないが、おれは大工仕事が得意だから、生徒のために机と椅子をつくろう」とお父さん。「私も、たくさんは無理だけど、1ダースなら鉛筆を寄付します」、「私はノートを1ダース」とお母さんたち。

こうしてこの日は終わったが、正直なところ、私は貧しい村の人たち、中でも現金収入のない女性が本当にノートや鉛筆を寄付できるのか半信半疑だった。「皆の前だから、ああは言ったものの…」

ところが翌朝、お母さん二人がさっそくノートと鉛筆の束を手会場に現れた。「本当に寄付してくれるんだね」カメラを向けると、ちょっと照れくさそうにほほえんだ。

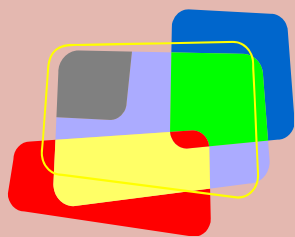


会で村人の話に耳を傾ける
定松栄一SCJネパール事務所代表



第4章

そして未来へ



世界を変えるスピーチ

① 地球は今、様々な課題を抱えています。
あなたが今、一番気になる課題は何ですか？

- ① みなさんは、「グローバルイシュー(地球的課題)」ということばを聞いたことがありますか？
原因が特定の地域だけでなく地球全体に関係している、深刻化すれば地球全体に影響がある、解決には地球全体の長期的な協力が必要である...そんな課題を「グローバルイシュー」と呼びます。
具体的にどんな課題があると思いますか？ グループでできるだけたくさん模造紙に書き出してみましょう。
- ② それぞれのグループが書き出した課題を発表し、みんなで共有しましょう。
- ③ 今みんなで出し合った課題の中で、あなたが一番気になる課題は何ですか？
グループで話し合っ、1つ選んでみましょう。
また、その課題について世界はどういう状況なのか、日本はどういう状況なのか、調べてみましょう。
- ④ さて、グループで選んだ課題を解決するための会議が開催されることになり、5分間のスピーチをすることになりました。なぜその課題に関心があるのか、その課題についてどんなことを思っているのか、その課題を解決するためにどうすればいいと思うか...などを盛り込んで、スピーチの原稿をグループのみんなで作ってきましょう。
- ⑤ では、会議の会場を想定して、実際にスピーチをしてみましょう。
- ⑥ ここに、「伝説のスピーチ」と言われている12歳の少女のスピーチがあります。この少女は、カナダに住む日系4世のセヴァン・カリス=スズキ。遊ぶことが大好きなふつうの女の子です。そのふつうの女の子が、世界中のおとなたちを感動させたスピーチです。聞いてみてください。(P.31~33)
- ⑦ スピーチをしてみてどうでしたか？
他のグループのスピーチや「伝説のスピーチ」を聞いてどんなことを感じましたか？
感想を話し合ってみましょう。



グローバルイシュー (地球的課題) と持続可能な社会

「グローバルイシュー」には様々な課題が含まれますが、大きく「人権」と「環境」の2つに分けられます。例えば、1992年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択された、21世紀に向けた持続可能な開発を実現するための行動計画『アジェンダ21』では、貧困、人口問題、健康と環境、人間居住、大気保全、森林減少、砂漠と干ばつ、生物多様性の保全などの課題をとりあげています。また、2000年の国連ミレニアム・サミットで採択されたミレニアム開発目標では、2015年までに達成すべき目標として下記の8つの項目を掲げ、189の加盟国が公約しました。

それらに掲げられているそれぞれの課題は、「貧困の問題が紛争につながる」「紛争がさらなる貧困を生みだす」「紛争は最大の環境破壊である」「環境が破壊されれば、ますます貧困になる」といったようにつながっており、原因にも結果にもなり得る悪循環をつくりだしています。さらに、地域における課題、たとえば「多文化共生」などの課題も地球の課題と共通する部分が多く、つきつめれば同じ原因で問題が起こっていたりします。

「持続可能な社会」とは、「持続可能な開発」、つまり、次世代のニーズを満たす可能性を損なわないで環境を利用し、現在の世代のニーズを満たす開発が行われる社会のことを言います。グローバルイシューを解決しない社会は、持続「不可能」な社会なのです。

ミレニアム開発目標 (MDGs)

「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバル化が世界のすべての人々にとって前向きな力となることを確保することである」とする国連ミレニアム宣言では、国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対する具体的な数値目標として、8の目標、21のターゲット、59の指標を掲げています。

貧困と飢餓をなくそう！ (極度の貧困と飢餓の撲滅)

地球上では、5人に1人が1日1ドル未満の所得で生活をし、7人に1人が慢性的な飢えに苦しんでいます。また、もっとも裕福な1%の人々が、もっとも貧しい157%の人々と同じだけの所得を得ています。所得貧困により、十分な栄養を得られない、適切な教育や保健医療を受けられない、安定した職を得られないという困難に多くの人が苦しんでいるのです。

小学校に通えるようにしよう！ (普遍的初等教育の達成)

1億1,500万人の子どもが学校に通っておらず、多くは南アジアとサハラ以南アフリカに住んでいます。途上国では5人に1人が学校に通っていないことになり、その5分の3は女の子です。また、世界中の成人のうち6人に1人が読み書きできません。その数は、8億7,600万人で、その3分の2は女性です。

男女の差をなくそう！ (ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上)

教育を受けていない母親から生まれた子どもは、教育を受けている母親から生まれた子どもに比べ、栄養不良や5歳未満で死亡する割合が2倍になるというデータがあります。また、教育を受けた母親の子どもの就学率も高くなっています。

赤ちゃんを守ろう！ (乳幼児死亡率の削減)

2002年、1,000人の子どものうち5歳未満で亡くなった子どもの数は、先進国では7人、南アジアでは97人、サハラ以南のアフリカでは174人に上ります。その背景には、貧困による不十分な食糧、不衛生な水、不公平な医療サービスが挙げられるほか、紛争や災害などで抵抗力の弱い子どもたちが犠牲となっているのです。

お母さんを守ろう！ (妊産婦の健康の改善)

51万5,000件に上る妊産婦の死亡の99%は途上国で起こっています。先進国では、2,900人に1人の妊産婦死亡率がサハラ以南アフリカでは13人に1人です。

病気をふせごう！ (HIV / エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止)

HIV感染者の90%以上が途上国の人で、サハラ以南アフリカは感染者全体の70%を占めています。毎年5億人がマラリアに感染し、100万人以上が死亡しています。このうち90%はサハラ以南アフリカに住んでいます。

くらしを良くしよう！ (環境の持続可能性の確保)

世界の森林は、2000年までの10年間で日本の国土面積の2.5倍にあたる約9,400万ヘクタールが減少しました。そのうちの96%がアフリカと南米の熱帯林です。エネルギーの消費量は、世界の上位10カ国が全体の65%を占めており、そのほとんどが先進国です。世界の10億人以上が安全な水を利用できずにいます。下水道などの基本的な衛生施設を利用できない人は26億人にのぼります。

世界のみんで助け合おう！ (開発のためのグローバル・パートナーシップの推進)

ミレニアム開発目標の達成には世界的な協力体制の下での取り組みが必要です。もはや開発は、国連や政府やNGOだけが取り組むものではありません。世界中の人々が協力しなければいけないのです。



この星をこれ以上こわし続けないで

～ 12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ～

こんにちは、セヴァン・スズキです。エコを代表してお話します。

エコというのは、子ども環境運動(エンヴァイロメンタル・チルドレンズ・オーガニゼーション)の略です。

カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるためにがんばっています。

あなたたち大人のみなさんにも、ぜひ生き方を変えていただくようお願いするために、

自分たちで費用をためて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をしてきました。

今日の私の話には、ウラモオモテもありません。

なぜって、私が環境運動をしているのは、私自身の未来のため。

自分の未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとはわけが違いますから。

私がここに立って話をしているのは、未来に生きる子どもたちのためです。

世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。

そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

太陽のもとにでるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。

呼吸をすることさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。

父とよくバンクーバーで釣りをしたものです。数年前に、体中がんでおかされた魚に出会うまで。

そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。

それらは、もう永遠にもどってはこないんです。

私の世代には、夢があります。

いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることです。

でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないかと

あなたたちは、私ぐらいの歳のときに、そんなことを心配したことがありますか。

こんな大変なことが、ものすごいいきおいで起こっているのに、私たち人間ときたら、

まるでまだまだ余裕があるようなのきな顔をしています。

まだ子どもの私には、この危機を救うのに、何をしたらいいのかはつきりわかりません。

でも、あなたたち大人にも知ってほしいんです。あなたたちもよい解決法なんて、もっていないっていうことを。

オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。

死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。

絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

どうやって直すのかわからないものをこわしつづけるのは、もうやめてください。

ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。

あるいは、報道関係者か政治家かもしれない。

でもほんとうは、あなたたちも、だれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、

おじなんです。そして、あなたたちのだれもが、だれかの子どもなんです。

私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。
そうです。50億人以上の人間からなる大家族。
いいえ、じつは3千万種類の生物からなる大家族です。
国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。
私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして
行動しなければならないことを知っています。

私は怒っています。
でも、自分を見失ってはいません。
私はこわい。
でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私はおそれません。

私の国でのむだづかいはたいへんなものです。
買っては捨て、また買っては捨てています。
それでも物を浪費しつづける北の国々は、南の国々と富をわかちあおうとはしません。
物がありあまっているのに、私たちは自分の富を、そのほんの少しでも手ばなすのがこわいんです。
カナダの私たちは、十分な食べものと水と住まいを持つめぐまれた生活をしています。
時計、自転車、コンピュータ、テレビ、私たちの持っているものを数えあげたら何日もかかることでしょう。

2日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。
ひとりの子どもが私たちにこう言いました。
「ぼくが金持ちだったらなあ。もしそうなら、家のない子すべてに、食べものと、着るものと、薬と、住む場所と、
やさしさと愛情をあげるのに。」
家もなにもないひとりの子どもが、わかちあうことを考えているというのに、
すべてを持っている私たちがこんなに欲が深いのは、いったいどうしてなのでしょう。
これらのめぐまれない子どもたちが、私と同じぐらいの歳だということが、私の頭をはなれませんが、
どこに生れついたかによって、こんなにも人生がちがってしまう。
私がリオの貧民街に住む子どものひとりだったかもしれないんです。
ソマリアの飢えた子どもだったかも、中東の戦争で犠牲になるか、
インドで物乞いしていたかもしれないんです。

もし、戦争のために使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決するために使えば、
この地球はすばらしい星になるでしょう。
私はまだ子どもだけど、そのことを知っています。
学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに、世の中でどうふるまうかを教えてください。
たとえば、
争いをしないこと
話し合いで解決すること
他人を尊重すること
ちらかしたら自分でかたづけること
ほかの生き物をむやみに傷つけないこと
わかちあうこと
そして欲ばらないこと

ならばなぜ、あなたたちは、私たちにするなということをしているんですか。


なぜあなたたちが今、こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。
そしていったいだれのためにやっているのか。
それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。
みなさんはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち、生きていくのかを決めているんです。

親たちはよく「だいじょうぶ、すべてうまくいくよ」という子どもたちをなぐさめるものです。
あるいは、「できるだけことはしてるから」とか、「この世の終わりじゃあるまいし」とか。
しかし大人たちは、もうこんななぐさめの言葉さえつかうことができなくなっているようです。

おききしますが、
私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。
父はいつも私に不言実行、つまり、
なにを言うかではなく、なにをするかでその人の値打ちが決まる、といいます。
しかし、あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。
あなたたちはいつも私たちを愛しているといいます。
しかし、いわせてください。

もしそのことばがほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめしてください。

最後まで私の話をきいてくださってありがとうございました。

 『あなたが世界を変える日～12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ』
セヴァン・カリス＝スズキ / 著 ナマケモノ倶楽部 / 編・訳 学陽書房発行



地球サミット

この伝説のスピーチは、1992年6月11日、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連の地球サミット(環境と開発に関する国際連合会議)の会場で、世界の指導者たちを前に行われました。

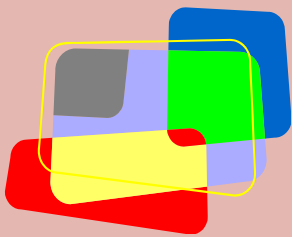
リオの地球サミットは、1992年6月3日～14日開催され、約180の国と地域の代表、国連機関、約8,000のNGO(非政府組織)が参加、延べ4万人を超える人々が集まった史上最大規模で、その後の様々な活動に大きな影響を与える会議となりました。

この会議では、持続可能な開発に向けた地球規模の新たなパートナーシップを構築するための「環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言(リオ宣言)」とその行動計画「アジェンダ21」が合意されました。また、「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」が提起されました。会議開催後、「生物多様性」といった用語が一般にも知られるようになり、さまざまな地球環境問題や生態系、絶滅危惧種等に対する一般の関心が高まるきっかけになりました。

国際連合による環境や開発を議題とする会議は約10年ごとに開催されており、2002年に南アフリカ共和国のヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(環境開発サミット)」は第2回地球サミットとも呼ばれています。

なお、この第2回地球サミットをきっかけに日本の提案により、2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決定されました。これは、「環境教育」「開発教育」「人権・平和教育」を3つの柱とし、「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」を目的としています。

参 考 资 料

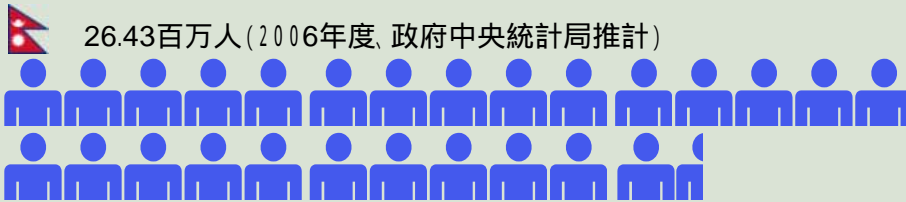


目で見るネパール



1962年の憲法で国旗の概要を述べ、さらに付属書で数百語を費やして幾何学的な説明をしていますが、これほど具体的に国旗の図柄を規定した例はほかにありません。月が王室を、太陽は首相一家を表すとされ、「月や太陽のようにネパールが長く栄えるように」との願いが込められています。

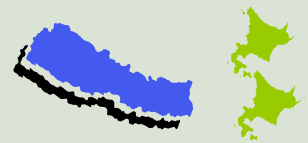
● 人口 ●



● 面積 ●

147,000km²
(北海道の約1.8倍)

377,887km²

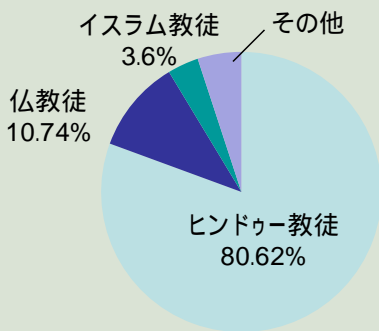


● 言語 ●

ネパール語



● 宗教 ●



● 民族 ●

リンブー、ライ、タマン、
ネワール、グルン、マガル、
タカリー 等

● 通貨 ●

ネパール・ルピー
Rs.=約1.16円
1ドル=約 Rs.77.8
(2009年1月)



● 気候帯 ●

高山気候
南部低地: 温帯夏雨気候

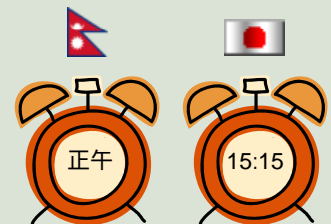


● 平均気温 ●



● 日本との時差 ●

- 3時間15分



国旗:『世界の国旗』吹浦忠正監修(Gakken) 人口・面積・首都・民族・通貨:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 日本の人口:世界子供白書2009(ユニセフ) 日本の面積:総務省統計局「日本の統計」 気候帯・平均気温・年間降水量:外務省ウェブサイト「探検しようみんなの地球」 名古屋の平均気温・年間降水量:気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) 言語・日本との時差:世界の国一覧表(財団法人世界の動き社)

●主要産業●
農業、カーペット、既製服、観光

●日本との貿易主要品目●

カーペット、手工芸品・民芸品、パシュミナ

機械、車関連部品、鉄鋼関連品

●一人あたりのGNI●

340米ドル(2007年世銀)

37,670米ドル(2007年世銀)

\$\$\$\$\$ \$\$\$\$\$\$ \$\$\$\$\$\$ \$\$\$\$\$\$ \$\$\$\$\$\$
\$\$\$\$\$ \$\$\$\$\$\$ \$

●在留邦人数●

526人
(2008年度海外在留邦人統計)

●在日ネパール人数●

9,384人
(2008年度在留外国人統計)

●出生時の平均余命●

64年

83年

●都市人口の比率●

17%(2007年)

66%(2007年)

●5歳未満児の死亡率● (出生1000人あたり)

55人(2007年)

4人(2007年)

●成人の総識字率●
(2000～2007年)

57%

●初等教育純就学/出席率●
(2000～2007年)

84%

●1日1ドル以下で暮らす人の比率●
(2005年)

55%

主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日ネパール人数：外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡率・1日1ドル以下で暮らす人の比率・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率：世界子供白書2009(ユニセフ)

ネパール地図



アジア





アジア





参考文献・データ等の出典

外務省「各国地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省「探検しよう! みんなの地球」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>

総務省統計局「日本の統計」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>

財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2009」

<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>

<第1章「ネパールの学校」>

「ネパールのカースト/エスニック・グループとその教育問題」

(社)日本ネパール協会理事 畠博之 <http://www.page.sannet.ne.jp/t-hata/roki/caste/jns02.htm>

外務省「諸外国の学校事情」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10900.html

「ネパールの小学校3年国語教科書」～けちんぼ老婆と賢い旅人～

素顔のアジア・旅写真家が見たアジアの輝き - ネパール編「ジャパン・トキオ(3)」

<http://www.tabisora.com/travel/05ne-03.html>

<第2章「ネパールの遊び」>

志免町ウェブサイト「親子DE異文化講座～ネパール編～」

<http://www.town.shime.lg.jp/shimehome.nsf/doc3/oi-houkoku-nepal>

ネパールの遊びと玩具

<http://www.page.sannet.ne.jp/t-hata/roki/toy/toy-list.htm>

JOCS日本キリスト教海外医療協力会ウェブサイト

「ネパールの子どもの遊び」 <http://www.jocs.or.jp/jocs/modules/wordpress/index.php?p=150>

大貫美佐子「アジアの遊び2 / 国際理解にやくだつ世界の遊び」ポプラ社

Wikipedia「クマリ」

<第2章「山のゴミ問題」>

野口健 公式サイト「」

野口健からのメッセージ「富士山から日本を変える」2004年4月16日

http://www.noguchi-ken.com/message/b_num/2004/4_0416_a.html

環境goo 野口健インタビュー

「第二次チョモランマ清掃登山隊&シェルパ基金」 <http://eco.goo.ne.jp/life/interview/noguchi/>

(特活)富士山クラブウェブサイト「清掃活動」 <http://www.fujisan.or.jp/action/clean/gomi-mondai.html>

<第3章「学校に行きたい」>

hataのホームページ「ヒマールチュリ(ネパール・ボランティアの部屋)」

<http://www.page.sannet.ne.jp/t-hata/roki/top.html>

ユニセフ『世界子ども白書2009』

『ユニセフの開発のための教育 - 地球市民を育てるための実践ガイドブック』1998年、日本ユニセフ協会

<第3章「内戦の傷痕」+ちょっとブレイク>

AH!ニューズレター「アジアの子ども」 VOL.44「ネパール号」『僕たちの手で』

ブログ LENP (Love Educated Nepal Project) 委員会～ネパールに学校を作ろう!～

<http://blogs.yahoo.co.jp/lenp2006icc>

『政府開発援助(ODA)白書2007年版 - 日本の国際協力 - 』外務省

「コラム17ネパールにおける和平プロセス支援」

ご協力いただいた方たち【敬称略】

渡辺裕子

久世治靖



2009年度教材作成チーム

安城市

長久手町

東海市

甚目寺町

東海市国際交流協会 東郷町

みよし市

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

財団法人 愛知県国際交流協会

世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 **ネパール連邦民主共和国** 

2010年3月

**発行
編集**

財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号

あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷

トッパン・フォームズ株式会社



